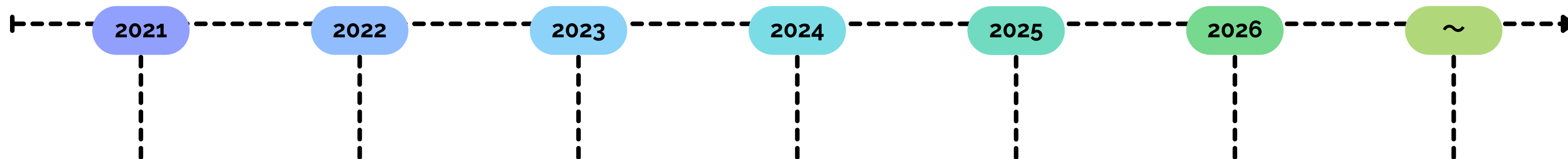


横浜国立大学体育会ソサイチ部の歩み



戸倉康太を中心に教育学部の有志でソサイチ同好会を設立。徐々に人が集まり15名程度でソサイチを楽しんでいた。

団体を体育会に移行し、チーム名をGaivotaに変更。ソサイチ関東リーグ4部Dに参入。参入初年度としての難しさや、体育会組織としての課題に向き合いながらも、チームの結束力でシーズンを乗り越え、初年度は8位でフィニッシュした。次年度に向けて、様々な経験を積み上げることができた一年となった。

3期目キャプテンに秦涼馬が就任し、団体名を現在の横浜国立大学体育会ソサイチ部に変更。学内でも体育会に登録されて、正式に体育会としての組織になる。週5日-6日の練習、スポンサーの獲得、SNSの強化など組織変革を行った。体育会になってからは全勝で関東リーグ3部リーグへ昇格。またKING OF SOCIETYの神奈川予選、埼玉予選を制し、TOPチーム、2ndチームともに全国大会出場。学生リーグであるUniva7'sリーグでも初代王者になるなど、部としての体制が整い、確かな結果も残した一年だった。

4期目キャプテンは引き続き秦涼馬が就任。組織としての知名度や制度が整い数多くの新入生が入部し、より組織が拡大した。昇格した関東3部リーグでは順調に勝ちを重ねて無敗優勝を達成し、関東リーグ2部に昇格した。ベスト7に山住泰斗、大堀建人が選出された。昨年のリベンジを果たすべく挑んだKING OF SOCIETYでは前回大会同様ベスト4で敗退してしまった。

5期目のキャプテンには大堀建人が就任。過去最大となる27人もの新入部員の加入で、部はかつてないほど大きい組織となった。関東リーグ1部昇格を目指し戦った2部初年度は12チーム中5位と、レベルの高さを感じた一年だった。KING OF SOCIETYでは予選敗退となり、悔しい一年となった。

6期目のキャプテンには伊藤俊太が就任。新チーム活動してすぐにあった、社会人を含めた全国大会では横浜予選を勝ち抜き、全国大会に出場。結果は予選リーグ1分2敗に終わったが、全国の一部リーグで戦う強豪たちとの試合を通じて、新チームの確かな手応えと大きな経験を得ることができた。2年目の関東リーグでは昨年のリベンジを果たすべく、目標を一部昇格とした。